式　辞

本日、ここに第23回中部学院大学学位記授与式、大学院学位記授与式、留学生別科修了式を迎える運びとなりました。学部卒業生、通信教育部卒業生、大学院修了生、留学生別科修了生の皆さん、誠におめでとうございます。

また、お忙しいご公務の中、ご臨席賜りました各務原市長の浅野健司様、関市長の尾関健治様には心よりお礼申し上げます。誠に有難うございます。

さて、本年度もコロナウイルス感染症対応のため、保護者の皆様方にはこの会場へのご出席はかないませんでしたが、すべての学生さんの参加の下、吹奏楽部の演奏も加わり、華やかにかつ厳かに開催できることをうれしく思います。

この良き日に当たり、特に心がけて頂きたい3点についてお話いたします。一つ目はコロナ禍という非常事態における心の持ち方、二つ目は地域を分析的に見る視野、三つ目はしなやかに、たくましく生き抜く勇気についてお話しします。

1つ目について、2020年3月日本に上陸した新型コロナウイルス感染症は、瞬く間に全国に広がり、現在は第8波が終息しようとしております。この間、マスクの着用、友達との会話の制限、対面と遠隔のハイブリット授業、幼稚園、小学校、病院、介護施設等での実習困難、代替えの校内実習、などなど、皆さんは極めて不便な環境での生活や勉学を経験しました。今まで当たり前のことが、当たり前でなくなりました。確かに大変な時代であります。しかしながら、いろいろ工夫することで、完ぺきではないですが、ほぼ目標を達成することができることも学修しました。非常事態をこのように捉えれば、心の持ち方も大きく変わると思います。また、この経験は必ず次につながると確信しています。

2つ目について、皆さんは福祉、教育、医療、スポーツ健康科学について学ばれ多くの知識を身につけられました。すなわち学問の叡智を修得されました。そして、多くの皆さんは地域の福祉施設、幼稚園、保育園、小学校、病院、スポーツ関連の会社等に就職されると思います。

一方、日本国内に目を向けますと、少子高齢化と地域の連関が大きな課題となっています。これはいわゆる先進諸国が遅かれ早かれ直面する問題で、我が国はその先頭を走りながら、一つのモデルを提供していることになります。このモデルにおける取組みの成果が成功と認識されるか、失敗と見做されるか、その評価基準にはいくつかの観点があると思います。言い換えれば、ある人がある地域で生きることの幸せをどのように評価するかについて、様々な見方があるということです。例えば我が国では、その地域に生まれ、育ち、家族とともに老いていくということも、一つのパターンとして望まれることがあります。そのためには地域に仕事があることは勿論、そこに定住できるためのサービス、すなわち医療、福祉、

そして何より地域における教育などが充実していることが必須条件かと思います。したがいまして、皆さんがどのようなところで活躍されるのであっても、地域の医療、福祉、教育について分析的に見る視野を兼ね備えて頂きたいと思います。

3 つ目について、皆さんはそれぞれの学部・学科で知識や技術を修得されました。また、クラブ活動などを通して多くの友人と出会い、多様な考え方、多様な行動様式、他者を尊敬し敬意を表すことの大切さを学ばれました。このような活動の中で考え、悩み、得られたものを言葉で表現すると、「しなやかに、たくましく生き抜く力」であると言えます。

大学時代の友人はいつまでも大切な友人です。困ったときだけでなく、ライフワークやスポーツなど多くの場面で人生を豊かにしてくれます。

皆さんには、中部学院大学で修得した叡智とともに、地域に対する貢献、ひいては広く人類に対する貢献をスタートさせて頂きたいと願います。近い将来、遠い将来を問わず、地域のどこかで、さらには地球上のどこかで皆さんがしなやかに、たくましく活躍されている様子を見聞できることを心より楽しみにしていると申し上げ、式辞と致します。

本日は誠におめでとうございました。

2023 年 3 月 18 日

中部学院大学

学長　江馬　諭